ウンシュウミカン果実におけるデランフロアブルとマシン油乳剤との散布間隔による薬害回避						
［要約］ウンシュウミカン果実において，デランフロアブルとマシン油乳剤との近接散布による薬害の発生を防ぐためには，デランフロアブルの散布を開花期までに終了するか，落弁期に散布した場合はマシン油乳剤との散布間隔を３週間以上あける必要がある。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専　門	作物病害	対　象	果 樹 類	分　類	普　及
平成 9年度長崎県果樹試験場業務報告 平成 9年度日本植物防疫協会　カンキツ農薬連絡試験成績（第34集）						

［背景・ねらい］

ウンシュウミカンの幼果期において，そうか病に効果の高いデランフロアブルとハダニ類に効果の高いマシン油乳剤を幼果期に混用または近接散布すると，果面に薬害を生じる。しかし，開花期～落弁期の散布による薬害については検討されていない。そこで，開花期～落弁期において，近接散布による薬害の発生と散布間隔を明らかにする。

［成果の内容・特徴］

①開花期にデランフロアブルを散布して 7日後にマシン油乳剤を近接散布しても，薬害の程度は軽く，実用上問題ない。

②落弁期にデランフロアブルを散布して 7日後または14日後にマシン油乳剤を近接散布すると，果実に明瞭な黄斑症状が認められ，実用上問題である。しかし，デランフロアブル散布21日後または28日後にマシン油乳剤を近接散布しても薬害の程度は軽く，実用上問題ない。

③開花期及び落弁期の各近接散布において，葉の薬害は認められない。

④以上のことから，デランフロアブルとマシン油乳剤との近接散布による薬害の発生を防ぐためには，デランフロアブルの散布を開花期までに終了するか，デランフロアブルを落弁期に散布した場合は，マシン油乳剤との散布間隔を 3週間以上あける必要がある。

［成果の活用面・留意点］

①開花期～落弁期において，デランフロアブルの最終散布時期及びマシン油乳剤との散布間隔が確定したので，果面に生じる薬害を回避できる。

[具体的データ]

表１　ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙとﾏｼﾝ油乳剤との近接散布によるｳﾝｼｭｳﾐｶﾝ果実の薬害発生

供試薬剤及び試験区	調査果数（果）	8月25日調査			10月20日調査		
		－	＋	薬害発生率(%)	－	＋	薬害発生率(%)
開花期(ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ1,000倍 5月9日散布)							
ﾊｰﾍﾞｽﾄｵｲﾙ200倍 5月16日散布(7日後)	100	98	2	2.0	100	0	0
5月23日散布(14日後)	100	100	0	0	100	0	0
5月30日散布(21日後)	100	100	0	0	100	0	0
6月 6日散布(28日後)	100	100	0	0	100	0	0
落弁期(ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ1,000倍 5月16日散布)							
ﾊｰﾍﾞｽﾄｵｲﾙ200倍 5月23日散布(7日後)	80	68	12	15.0	71	9	11.3
5月30日散布(14日後)	93	83	10	10.8	87	6	6.5
6月 6日散布(21日後)	94	88	6	6.4	94	0	0
6月13日散布(28日後)	92	91	1	1.1	92	0	0
落弁期 (ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ1,000倍・ﾊｰﾍﾞｽﾄｵｲﾙ200倍 5月16日混用散布)	93	79	14	15.1	79	14	15.1

表２　試験期間中の気象概況

月　日	5. 9～5.15	5.16～5.22	5.23～5.29	5.30～6. 5	6. 6～6.12	6.13～8.25
降水量（mm）	123.0	0.5	2.0	18.0	68.5	1,186.0

[その他]

研究課題名：カンキツ病害虫の防除法

予算区分：委託

研究期間：平成 9年（昭和59年～）

研究担当者：古賀敬一，西野敏勝

既発表論文等：平成 9年度　長崎県果樹試験場業務報告

平成 9年度　日本植物防疫協会　カンキツ農薬連絡試験成績（第34集）